

大嘗宮の儀関係資料

- 1 次第書
- 2 大嘗宮（建物配置及び主要施設概要）
- 3 神座（概要図）
- 4 繪服，籠服（規格，数量，製作者）
- 5 稻舂（臼及び杵，采女，樂師の配置図）
- 6 庭積の机代物（精米・精粟）
- 7 庭積の机代物（特産品の都道府県別品目）
- 8 脂燭（形状，寸法，材料等）
- 9 御菅蓋（形状，寸法，材料等）
- 10 国栖の古風（歌詞）
- 11 神饌（名称，読み）
- 12 神樂歌（歌詞等）
- 13 御告文（先例）

1 次第書

大嘗宮の儀

1 1月14日午前9時，大嘗宮を装飾する。

午後5時，参列の諸員が休所に参集する。

次に皇嗣，皇嗣妃，親王，親王妃，内親王及び女王が皇族休所に参集される。

時刻，天皇が御休所にお着きになる。

時刻，皇后が御休所にお着きになる。

次に衛門20人が南北（左右各3人）及び東西（左右各2人）各神門の所定の位置に着く。

次に威儀の者左右各6人が南神門から参入し，所定の位置に着く。

次に悠紀主基兩殿の神座を奉安する（掌典長が掌典次長，掌典及び掌典補を率いて奉仕する。）。

次に繪服，麤服を各殿の神座に置く（掌典長が奉仕する。）。

次に各殿に斎火の灯燎を点す（掌典が掌典補を率いて奉仕する。）。

この時，庭燎を焼く。

悠紀殿供饌の儀

時刻，天皇が廻立殿にお入りになる。

次に小忌御湯を供する（侍従が奉仕する。）。

次に御祭服を供する（侍従が奉仕する。）。

次に御手水を供する（侍従が奉仕する。）。

次に御笏を供する（侍従が奉仕する。）。

時刻，皇后が廻立殿にお入りになる。

次に御服を供する（女官が奉仕する。）。

次に御手水を供する（女官が奉仕する。）。

次に御檜扇を供する（女官が奉仕する。）。

時刻，式部官が前導して諸員が参進し，南神門外の幄舎に着床する。

次に膳屋に稻舂歌を発し（楽師が奉仕する。），稻舂を行い（采女が奉仕する。），神饌を調理する（掌典が掌典補を率いて奉仕する。）。

次に本殿南庭の帳殿に庭積の机代物を置く（掌典が掌典補を率いて奉仕する。）。

次に掌典長が本殿に参進し，祝詞を奏する。

次に天皇が本殿にお進みになる。

式部官長及び宮内庁長官が前行し（侍従左右各1人が脂燭を執る。），御前侍従が劍璽を奉じ，御後侍従が御菅蓋を捧持し，御綱を

張り，侍従長，侍従が随従し，皇嗣及び親王が供奉され，大札副委員長 1 人が随従する。

この時，掌典長が本殿南階の下に候し，式部官左右各 1 人が脂燭を執って南階の下に立つ。

次に侍従が劍璽を奉じて南階を昇り，外陣の幌内に参進し，劍璽を案上に奉安し，西面の幌外に退下し，簀子に候する。

午後 6 時 30 分，天皇が外陣の御座にお着きになり，侍従長及び掌典長が南階を昇り，簀子に候する。

この時，本殿南庭の小忌の幄舎に皇嗣及び親王が着床され，宮内庁長官以下の前行，随従の諸員が着床する。

次に皇后が本殿南庭の帳殿にお進みになる。

式部副長及び侍従次長が前行し（侍従左右各 1 人が脂燭を執る。），女官長及び女官が随従し，皇嗣妃，親王妃，内親王及び女王が供奉され，大札副委員長 1 人が随従する。

次に皇后が帳殿の御座にお着きになり，女官長及び女官が殿外に候する。

この時，殿外の小忌の幄舎に皇嗣妃，親王妃，内親王及び女王が着床され，侍従次長以下の前行，随従の諸員が着床する。

次に式部官が楽師を率いて本殿南庭の所定の位置に着く。

次に国栖の古風を奏する。

次に悠紀地方の風俗歌を奏する。

次に皇后が御拝礼になる。

次に皇嗣，皇嗣妃，親王，親王妃，内親王及び女王が拝礼される。

次に諸員が拝礼する。

次に皇后が廻立殿にお帰りになる。

前行，供奉及び随従はお出ましのときと同じである。

次に本殿南庭の回廊に神饌を行立する。

掌典補左右各 1 人が脂燭を執り，掌典 1 人が削木を執る。

掌典 1 人が海老鱗盥槽を執り，同 1 人が多志良加を執る。

陪膳の采女 1 人が御刀子筥を執り，後取の采女 1 人が御巾子筥を執る。

采女 1 人が神食薦を執り，同 1 人が御食薦を執る。

采女 1 人が御箸筥を執り，同 1 人が御枚手筥を執る。

采女 1 人が御飯筥を執り，同 1 人が鮮物筥を執る。

采女 1 人が干物筥を執り，同 1 人が御菓子筥を執る。

掌典 1 人が蛸汁漬を執り，同 1 人が海藻汁漬を執る。

掌典補 2 人が空盞を執り，同 2 人が御羹八足机を昇く。

掌典補 2 人が御酒八足机を昇き，同 2 人が御粥八足机を昇き，同 2

人が御直会八足机を昇く。
次に削木を執る掌典が本殿南階の下に立って警蹕をとる。
この時、神楽歌を奏する。
次に天皇が内陣の御座にお着きになり、侍従長及び掌典長が外陣の幌内に参入し、奉侍する。
次に御手水を供する（陪膳の采女が奉仕する。）。
次に神饌を御親供になる。
次に御拝礼の上、御告文をお奏しになる。
次に御直会
次に神饌を撤下する（陪膳の采女が奉仕する。）。
次に御手水を供する（陪膳の采女が奉仕する。）。
次に神饌を膳舎に退下する。
その儀は、行立のときと同じである。
次に廻立殿にお帰りになる。
前行、供奉及び随従は、お出ましのときと同じである。
次に各退出する。

参列の範囲は、次のとおりとする。
内閣総理大臣，元内閣総理大臣及び副総理並びに以上の者の配偶者
国務大臣及び副大臣
内閣法制局長官及び内閣官房副長官
検査官，人事官，公正取引委員会委員長，原子力規制委員会委員長，検事総長，次長検事，検事長
衆議院の議長，元議長，副議長並びに以上の者の配偶者，常任委員長，特別委員長，憲法審査会会長，情報監視審査会会長及び政治倫理審査会会長
衆議院の議員40人（特記した議員及び副大臣である議員を除く。）及び事務総長
参議院の議長，元議長，副議長並びに以上の者の配偶者，常任委員長，特別委員長，調査会長，憲法審査会会長，情報監視審査会会長及び政治倫理審査会会長
参議院の議員21人（特記した議員及び副大臣である議員を除く。）及び事務総長
国立国会図書館長
最高裁判所長官，元最高裁判所長官及び最高裁判所判事（長官代行）並びに以上の者の配偶者，最高裁判所判事，高等裁判所長官及び最高裁判所事務総長
各省庁の事務次官等で宮内庁長官が指定する者

都道府県の知事及び議会議長
 市及び町村の長及び議会議長の代表
 栃木県及び京都府の農業協同組合中央会会長
 栃木県及び京都府の斎田の大田主及びその配偶者
 各界の代表
 その他別に定める者

○

服装 天皇：御祭服

皇后：白色帛御五衣・同御唐衣・同御裳

皇嗣及び親王：束帯（帯剣）・小忌衣

皇嗣妃，親王妃，内親王及び女王：五衣・唐衣・裳・小忌衣

宮内庁長官，侍従長，侍従次長，侍従，式部官長，式部副長，
 式部官，大礼副委員長，掌典長，掌典次長，掌典，掌典補，楽長
 及び楽師：束帯・小忌衣

女官長及び女官：五衣・唐衣・裳・小忌衣，桂袴・小忌衣

采女：白色帛畫衣・唐衣・紅切袴・青摺禪

威儀の者及び衛門：束帯（帯剣）・小忌衣

参列の諸員

男子： モーニングコート，紋付羽織袴

女子： ロングドレス（ローブモンタント），デイドレス，
 白襟紋付
 外套着用可

お列

天皇のお列

式部官長	宮内庁長官	侍従（脂燭）	侍従（御筵道）	侍従（璽）
		侍従（脂燭）	侍従（御筵道）	侍従（劍）
天 皇	侍従（御裾）	侍従（御筵道）	侍従（御菅蓋）	侍従（御綱）
		侍従（御筵道）		侍従（御綱）
侍従長	侍従	皇嗣	親王	大礼副委員長

皇后のお列

侍従（脂燭）

女官（御裾）

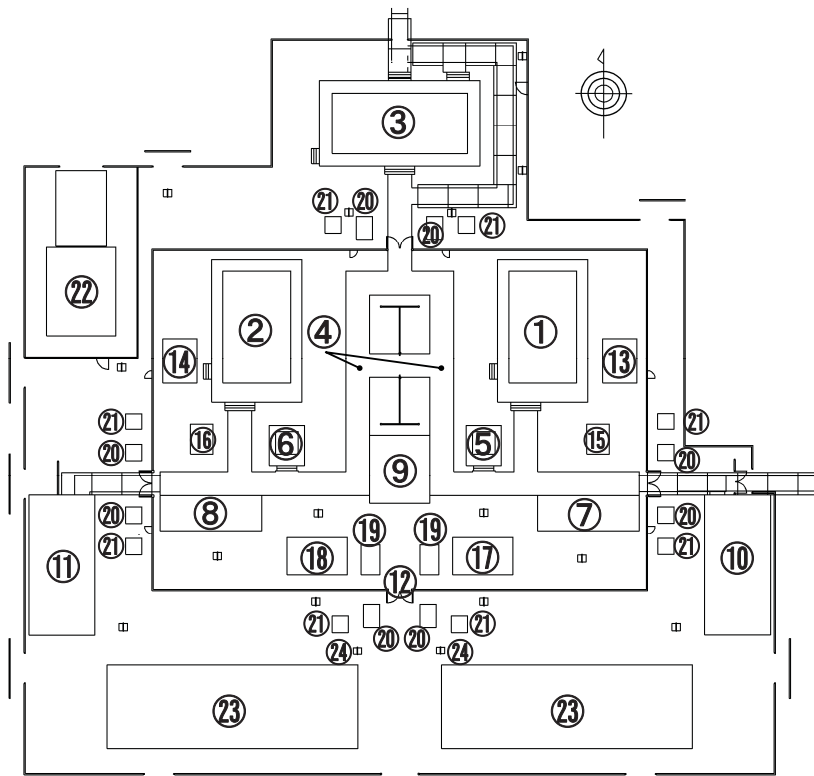
式部副長 侍従次長 侍従（脂燭） 皇 后 女官（御裾） 女官長

皇嗣妃 親王妃 内親王 女王 大札副委員長

主基殿供饌の儀

悠紀殿供饌の儀に倣う（11月15日午前0時30分天皇主基殿外陣御着）。

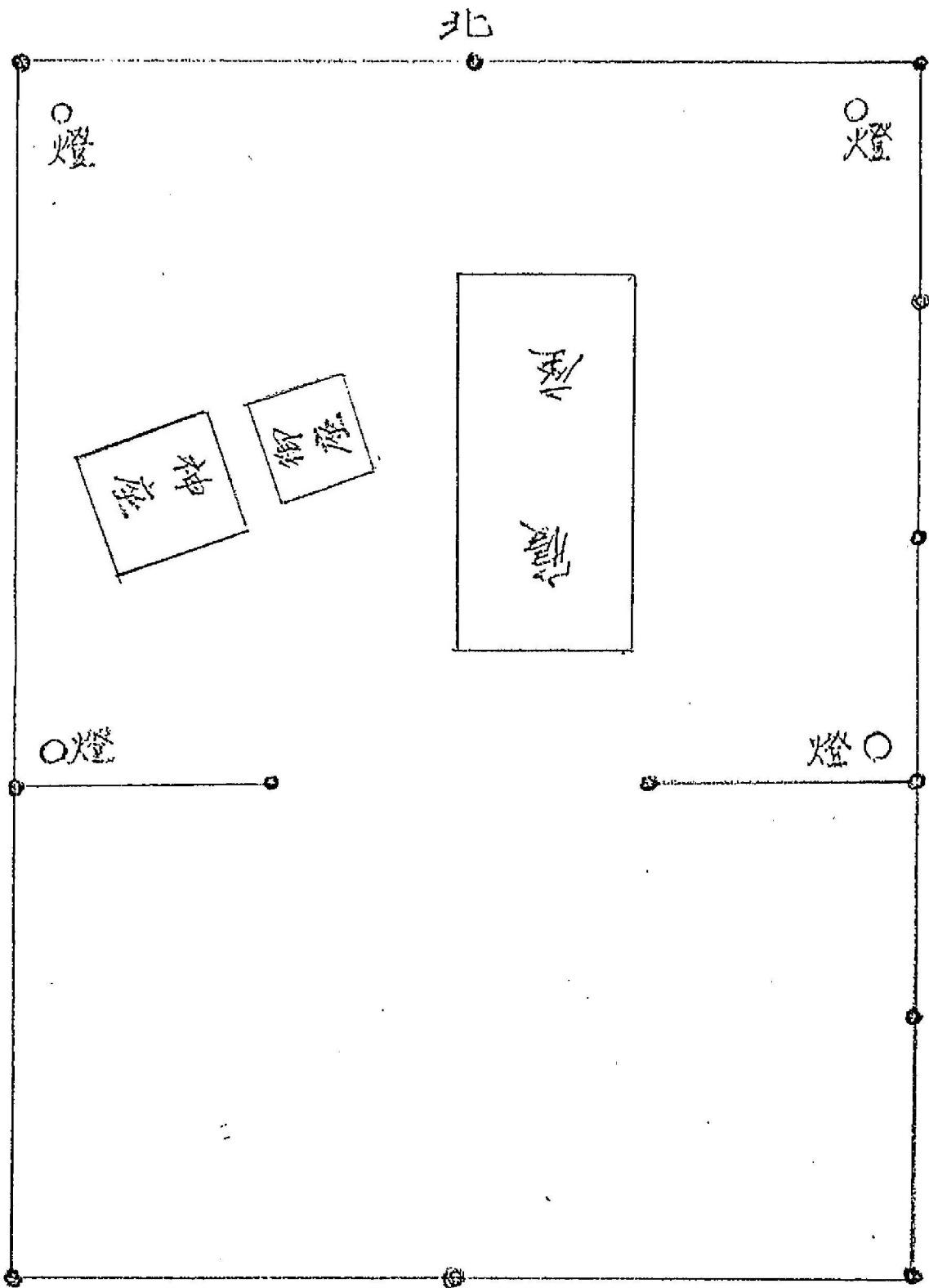
2 大嘗宮 (建物配置及び主要施設概要)



① <small>ゆきでん</small> 悠紀殿	<small>ゆきでんきょうせん</small> 悠紀殿供饗の儀において、天皇陛下が、 <small>しんせん</small> 神饗をお供えになり、 <small>おつぷみ</small> ご拝礼の上、御告文をお奏しになり、自らもお召し上がりになる建物
② <small>すきでん</small> 主基殿	<small>すきでんきょうせん</small> 主基殿供饗の儀において、天皇陛下が、神饗をお供えになり、ご拝礼の上、御告文をお奏しになり、自らもお召し上がりになる建物
③ <small>かいりゅうでん</small> 廻立殿	大嘗宮の儀に先立ち天皇皇后両陛下がご潔斎やお召替えをなさる建物
④ <small>うぎおろうか</small> 雨儀御廊下	儀式中に天皇陛下がお通りになる屋根の付いた廊下
⑤⑥ <small>ちやうでん</small> 帳殿	皇后陛下が、ご拝礼のためにお出ましになる建物
⑦⑧ <small>おみあくしや</small> 小忌幄舎	男子皇族が参列される建物
⑨ <small>でんがいおみあくしや</small> 殿外小忌幄舎	女子皇族が参列される建物
⑩⑪ <small>かしわや</small> 膳屋	神饗を調理する建物。⑩からは悠紀殿まで、⑪からは主基殿まで、それぞれ行列が立てられて、神饗が持ち運ばれる。
⑫ <small>みなみしんもん</small> 南神門	大嘗宮の各所に設けられた5つの門の一つ。
⑬⑭ <small>がくしや</small> 楽舎	<small>がくし</small> 楽師が奏楽を行う建物
⑮⑯ <small>にわづみのちやうでん</small> 庭積帳殿	各都道府県の特産である農林水産物（ <small>にわづみのつくえしろもの</small> 庭積机代物）が供えられる建物
⑰⑱ <small>ふぞくたぐすのいにしえぶりのあく</small> 風俗歌国栖古風幄	楽師が、歌（悠紀地方及び主基地方の風俗歌と国栖の古風）を奏する建物
⑲ <small>いぎあく</small> 威儀幄	<small>いぎ</small> 威儀の者が着座する建物
⑳ <small>えもんあく</small> 衛門幄	<small>えもん</small> 衛門が着座する建物
㉑ <small>ていりやうしや</small> 庭燎舎	<small>た</small> かがり火を焚く建物
㉒ <small>さいこ</small> 斎庫	新穀を保管する建物
㉓ <small>あくしや</small> 幄舎	参列諸員が参列する建物
㉔ <small>くろきどうろう</small> 黒木灯笼	皮付き丸太で造られた灯笼（南神門前のもののみ番号を付した）

3 神座 (概要図)

大嘗宮内図



4 にぎたえ あらたえ 繪服・僊服

1 繪服

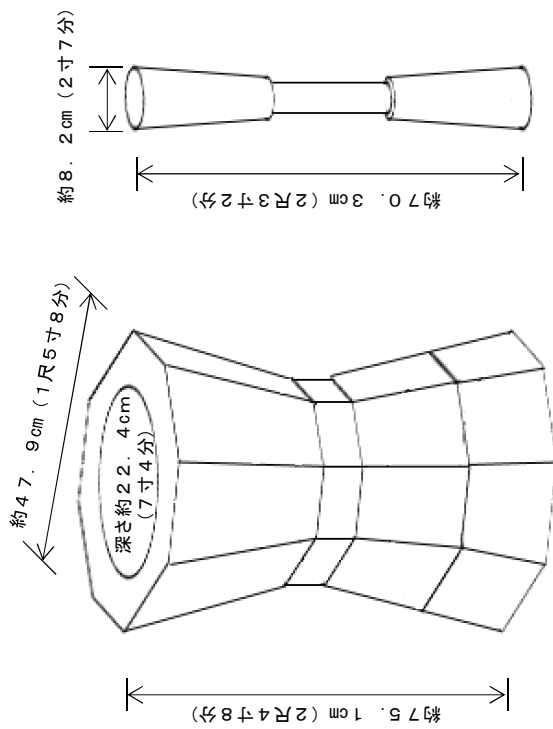
規 格	<small>しろすずし</small> 白生絹 布幅 1尺（鯨尺）＝約37.9cm 長さ 5丈（鯨尺）＝約1,895cm
数 量	4匹（1匹＝2反）
納入者	一般財団法人古橋会

2 僊服

規 格	<small>あさきらしぬの</small> 麻晒布 布幅 9寸（鯨尺）＝約34.1cm 長さ 2丈9尺（鯨尺）＝約1,099.1cm
数 量	4反
納入者	三木家当主 三木信夫

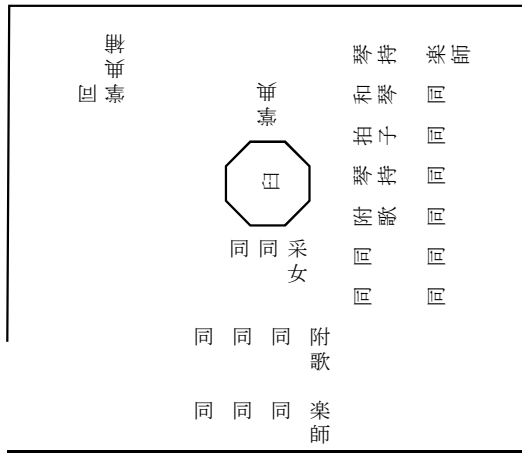
5 稻舂（臼及び杵，采女，楽師の配置図）

臼（ケヤキ材） 杵（桧材）

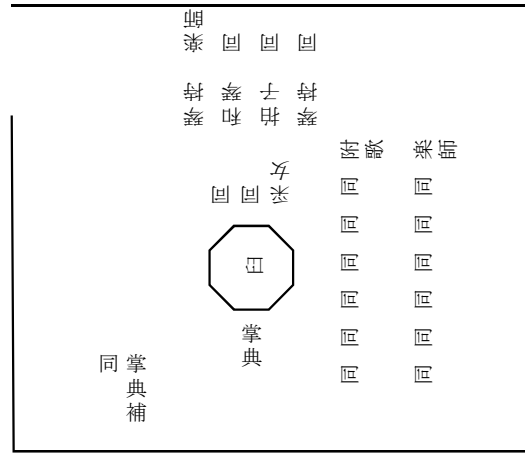


八角形

悠紀

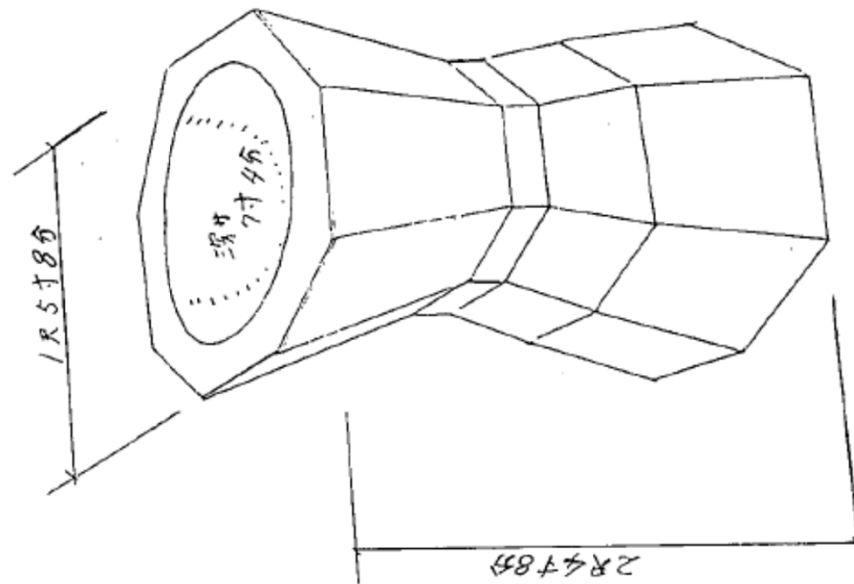


主基

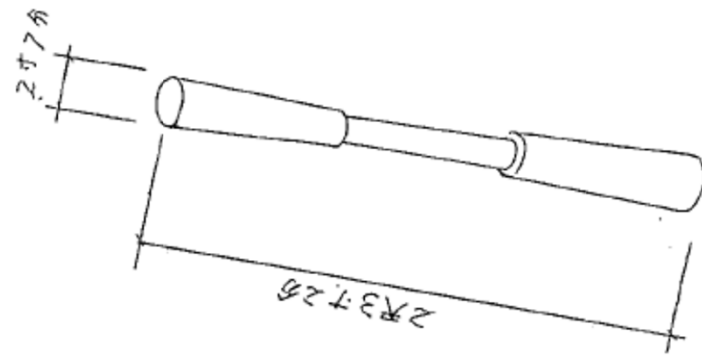


5 白及びび杵

ケヤキ材白



桧材杵



八角形

6 庭積の机代物（精米・精粟）

1 精米

4 7 都道府県

各 1. 5 k g

2 精粟

2 5 都府県

（青森県，岩手県，宮城県，秋田県，山形県，茨城県，栃木県，群馬県，東京都，新潟県，福井県，山梨県，長野県，岐阜県，京都府，兵庫県，岡山県，徳島県，愛媛県，福岡県，熊本県，大分県，宮崎県，鹿児島県，沖縄県）

各 0. 7 5 k g

7 庭積の机代物 都道府県別品目

1 悠紀地方

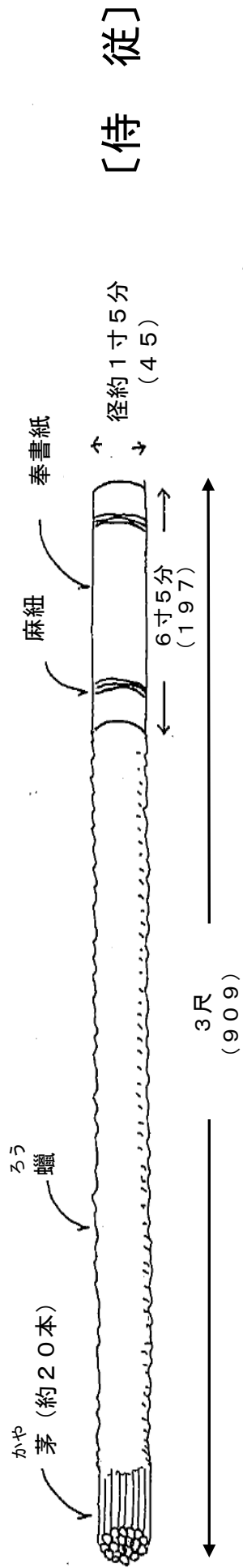
都道府県名	品 目 名				
1 北海道	小豆	馬鈴しょ	小麦	干ぼたて貝柱	昆布
2 青森	りんご	ながいも	ごぼう	鮭燻製	ぼたて干貝柱
3 岩手	りんご	さといも	乾しいたけ	干こんぶ	新巻鮭
4 宮城	大豆	りんご	白菜	乾しいたけ	塩銀鮭 (みやぎサーモン)
5 秋田	大豆	セリ	りんご	天然きのこ(まいたけ)	ハタハター夜干し
6 山形	ラ・フランス	シャインマスカット	柿	ぜんまい	するめ
7 福島	りんご	なし	生しいたけ	干マガレイ	
8 茨城	白菜	蓮根	しらす干し	わかさぎ煮干し	乾しいたけ
9 栃木	二条大麦(もち絹香)	南瓜	莓	りんご	柚子
10 群馬	りんご	こんにゃくいも	やまといも	しいたけ	小麦
11 埼玉	小麦	やまといも	丸系八つ頭	茶	
12 千葉	落花生	日本梨	にんじん	海苔	鯖節
13 東京	キャベツ	大根	独活(うど)	椎茸	てんぐさ
14 神奈川	茶	落花生	だいこん	キャベツ	のり
15 新潟	柿	里芋	蓮根	乾しいたけ	塩引き鮭
16 山梨	ぶどう	かき	トマト	あけぼの大豆	山梨夏っ子きのこ (クロアワビタケ)
17 長野	りんご	ながいも	わさび	寒天	乾しいたけ
18 静岡	茶	みかん	山葵	乾椎茸	鰹節

7 庭積の机代物 都道府県別品目

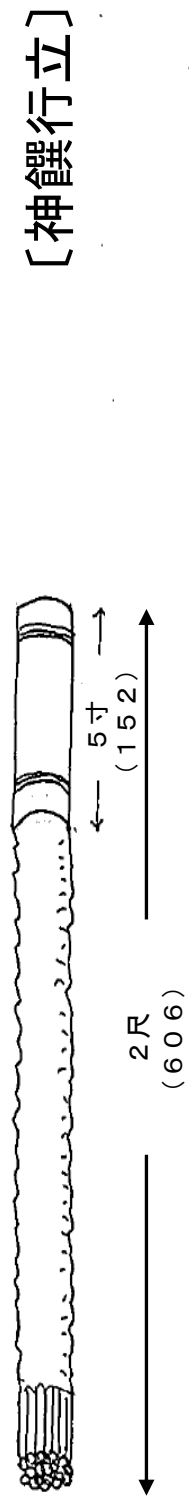
2 主 基 地 方

都道府県名	品 目 名				
1 富 山	大豆	さといも	苹果（りんご）	シロエビ（燻製）	イナダの天日干し
2 石 川	加賀棒茶	紋平柿	能登金糸瓜	能登原木乾しいたけ	輪島海女採りあわび
3 福 井	大豆	抜き実そば	さといも	乾しいたけ	若狭ぐじ
4 岐 阜	柿（富有柿）	栗（ぼろたん）	りんご	干椎茸	干鮎
5 愛 知	ふき	れんこん	柿	にんじん	海苔
6 三 重	茶	みかん	のしあわび	乾燥ひじき	鯉節
7 滋 賀	茶	やまいも	焼きほんもろこ		
8 京 都	長だいこん	ごぼ丹	しいたけ	宇治茶	ササガレイ
9 大 阪	栗	みかん	海老芋	干しいたけ	ちりめんじゃこ
10 兵 庫	丹波黒大豆	丹波栗	佐用もち大豆	兵庫のり	干鯛
11 奈 良	柿	緑茶	吉野葛		
12 和歌山	みかん	富有柿	干しさば	干しまぐろ	乾燥ひじき
13 鳥 取	あんぼ柿	ヤマノイモ (ねばりっこ)	梨（王秋）	乾しいたけ	ハタハタ丸干
14 島 根	西条柿（あんぼ）	わさび	干し椎茸	板わかめ	岩のり
15 岡 山	黒大豆	ぶどう	なす	干海老	干たこ
16 広 島	さやえんどう	西条柿	レモン		
17 山 口	だいだい	れんこん	干しいたけ	するめ	ちりめんじゃこ
18 徳 島	すだち	乾しいたけ	わかめ		
19 香 川	小麦	キウイフルーツ	オリーブ（生）	乾しいたけ	煮干いわし
20 愛 媛	温州みかん（日の丸）	サトイモ（伊予美人）	はだか麦	乾しいたけ	干鯛
21 高 知	文旦	ゆず	干椎茸	鯉節	
22 福 岡	柿	茶	乾椎茸	干鯛	干海苔
23 佐 賀	れんこん	みかん	茶	きゅうり	海苔
24 長 崎	乾しいたけ	みかん	煮干	長ひじき	あおさ
25 熊 本	デコボン	すいか	トマト	乾しいたけ	乾海苔
26 大 分	かぼす	梨	かんしょ	乾しいたけ	ひじき
27 宮 崎	茶	干し椎茸	キンカン	甘藷	ちりめんじゃこ
28 鹿児島	茶	さつまいも	ピーマン	早堀たけのこ	本枯れ節
29 沖 縄	ゴーヤー	クロアワビタケ	乾燥モズク	乾燥アーサ	

8 脂燭ししよく



[侍従]



[神饌行立]

() はmm

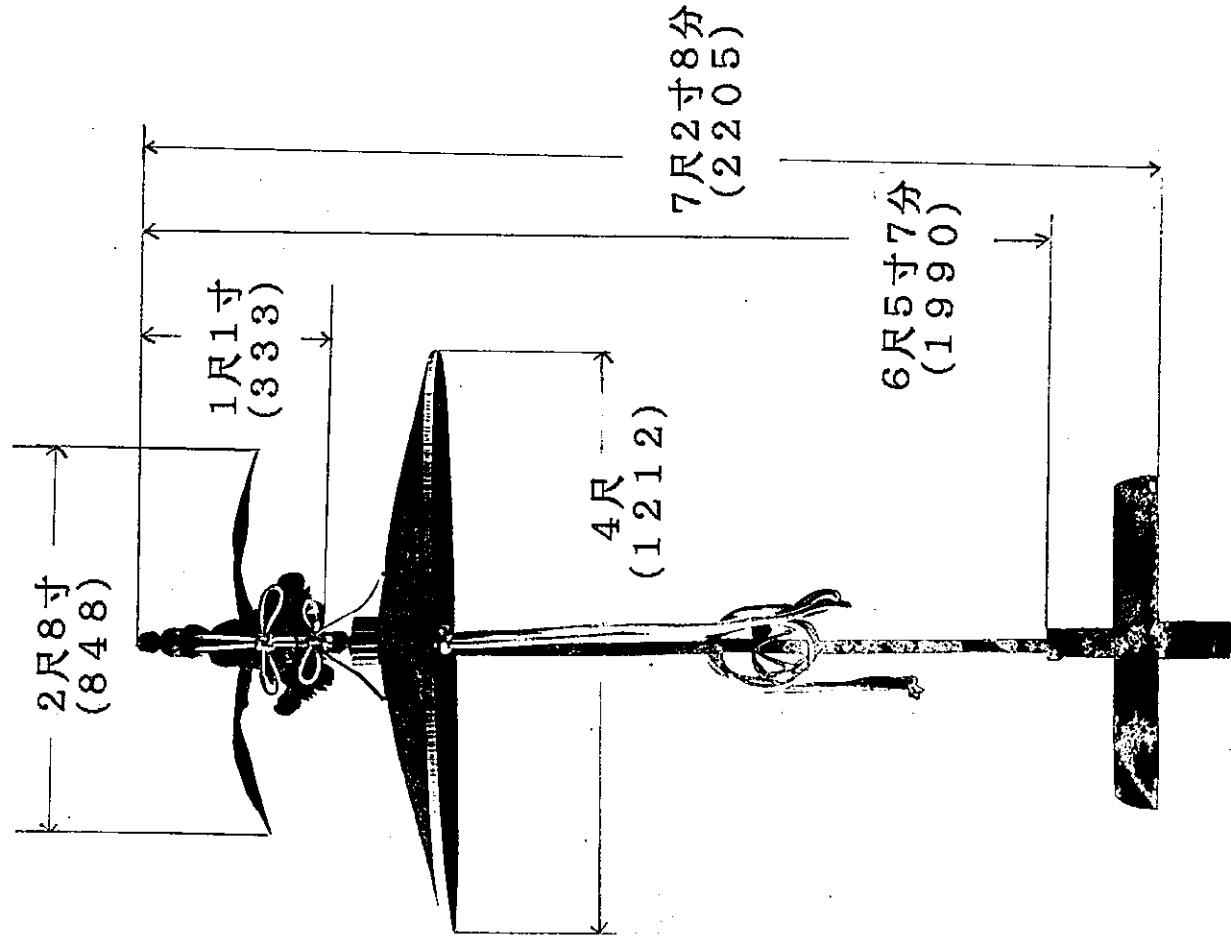
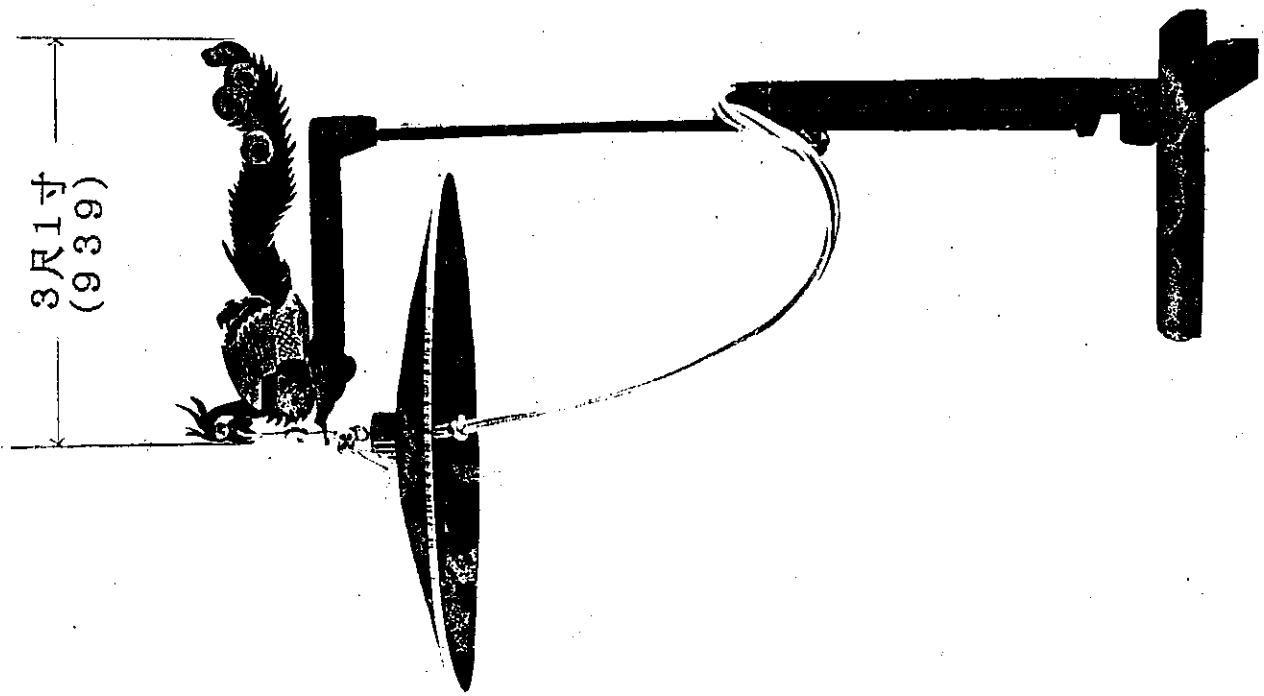
9 おかんがい 御菅蓋

材 料

鳳 凰 頭・首・胴
両翼・尾羽

菅 笠 菅

台等の木部 桧材



※ () 内はmmの単位を示す

10 国栖くすの古風いにしよふう

まろが父ちちが醸かめる大御酒おほみき
聞きこし以もち飲をせ
甘うまらに
横よこ臼すに
横よこ臼すを作つくり
櫃かの生なまに

この歌は、応神天皇が吉野宮に行幸になった折、国栖の人々が大御酒を醸して献上したとき歌った故事に由来すると言われています。

1 1 神饌（名称，読み）

削木	けずりぎ
海老鱮盥槽	えびのはたふね
多志良加	たしらか
御刀子筥	おんかたなばこ
御巾子筥	おんたなごいばこ
神食薦	かみのすごも
御食薦	みすごも
御箸筥	おんはしばこ
御枚手筥	おんひらてばこ
御飯筥	おものばこ
鮮物筥	なまものばこ
干物筥	からものばこ
御菓子筥	おんくだものばこ
蛸汁漬	あわびのしる
海藻汁漬	めのしる
空盞	こうさん
御羹八足机	おんあつものはっそくづくえ
御酒八足机	みきはっそくづくえ
御粥八足机	おかゆはっそくづくえ
御直会八足机	おんなおらいはっそくづくえ

1 2 神楽歌曲目（大嘗宮の儀）について

（*印 歌詞別添）

（悠紀殿の儀）

^{ねとり}
音取（笛、箏）

^{あじめさほう}
阿知女作法（本歌、末歌、和琴のみ）

採物

榊 *

幣 *

韓神

閑韓神*

早韓神*

（主基殿の儀）

音取（笛、箏）

阿知女作法（本歌、末歌、和琴のみ）

^{こさいばり}
小前張

薦枕 *

志都也 *

磯等 *

篠波 *

早歌 *

朝倉 *

其駒 *

千歳 * （入御のとき）

付属

神楽歌の歌詞

^{さかき}
榊

^{さかき} ^は ^か ^と ^{やそうじひと}
榊葉の 香をかぐはしみ 見めくれば 八十氏人ぞ

^{かみがき} ^{みむろ} ^{みまえ}
神垣の 御室の山の 榊葉は 神の御前に 茂り合ひに

みてぐら
幣

幣帛は 我がにはあらず 天に坐す 豊岡姫の
幣帛に ならましものを 皇神の 御手に取られて
なづさわるべき なづさわるべき

しずからかみ
閑韓神

三島木綿 肩に取り掛け 我れ韓神の
韓招きせんや 韓招き
八葉盤を 手に取り持ちて 我れ韓神の
韓招きせんや 韓招き

早韓神

肩に取り掛け われ韓神の 韓招きせんや からおき
手に取り持ちて 我れ韓神の 韓招きせんや からおき

こもまくら
薦枕

誰が贄人ぞ 鳴突き上る 網をきし
其の贄人ぞ 鳴突き上る 網をきし

しづや
志都也

閑野の小菅 鎌もて苺らば 生ひんや
天なる雲雀 寄り来や雲雀 富草

いそら
磯等

磯等が崎に 鯛釣る 海人も鯛釣る
我妹子が為と 鯛釣る 海人も鯛釣る

さざなみ
篠波

篠波や 志賀の唐崎や 御稻春く
女の佳ささや 其れもかも彼もかも
従姉妹せの 眞従姉妹せに
葦原田の 稻春蟹のや 己さえ
嫁を得ずとてや 捧げては捧げや
捧げては捧げや 腕拳を

はやうた
早歌

や ^{いづ}何れそも ^{とうと}停まり
や ^か彼の^{さき}崎 ^こ越えて
や ^{みやま}深山の ^{こつづら}小葛
や ^く繰れ^く繰れ ^こ小葛

-----揚拍子-----

や ^{さぎ}鷺の^{くび}頸 ^と取ろんど
や ^{いと}はた ^と取ろんど
や ^{あかがり}駈 ^ふ踏むな ^{しり}後なる子
や ^{われ}も眼はあり^{さき}前なる子
や ^谷から行かば ^尾から行かん
や ^尾から行かば ^谷から行かん
や ^{をみなご}女子の^{さえ}才ば
や ^{しもつき}霜月師走の ^{かきこほ}垣壊り
や ^{あふりど}翻戸や ^{ひはりど}檜張戸
や ^檜張戸や^翻戸

あさくら
朝倉

朝倉や ^き木の^{まるどの}丸殿にや ^わ吾が^を居れば
吾が居れば ^な名^の乗りをしつゝや ^{たれ}行くや誰

そのこま
其駒

其駒ぞや 我れに我れに 草乞ふ
草は取り飼はん 水は取り 草は取り飼はん

せんざい
千歳

千歳千歳 千歳や ^{ちとせ}千年の千歳や
^{まんざい}萬歳萬歳 萬歳や ^{よろづよ}萬世の萬歳や
^{なお}尚 千歳 尚 萬歳

13 御告文（先例）

※現時点で史料によって確認できる大嘗祭の「御告文」は以下の通り。

① 建暦二年（一一二二）の順徳天皇大嘗祭の例

〔後鳥羽天皇宸記^{大嘗會卯日}御陪膳儀^儀〕 ○伏見宮本

建暦二年十月廿五日^{丁酉}御記曰、公家於悠紀・主基神殿可被祈請申詞、一昨日廿三日教申之、此事最祕藏事也、代々此事不載諸家記、又無知人歟、殊祕藏爲事也、其詞云、

坐伊勢五十鈴河上天照大神、又天神地祇諸神明曰、朕因皇神之廣護、國中平安、年穀豐稔、覆壽上下救濟諸民、仍奉供今年新所得新飯如此、又於朕躬攘除可犯諸災難於未萌、不祥惡事遂莫犯來、又於高山深谷所々社々大海小川而記名厭祭者、皆盡銷滅而已、

是尤祕事也、朕字ハ只次第書様也、實祈請時ハ可爲實名者也、

【読み下し案】

伊勢の五十鈴の河上に坐す天照大神、又天神地祇諸の神に明らけく曰さく、朕皇神の廣き護りに因り、國中平らけく安らけく、年穀豊かに稔り、上下を覆い壽ぎ、諸の民を救ひ濟さん、仍りて今年新たに得たる所の新飯^{にひをも}を奉ること此の如し、又朕が躬に於て犯すべき諸の災難を未だ萌^きさざるに攘ひ除き、不祥惡事を遂に犯し來ること莫^なからん、又高き山深き谷所々の社々大海小川に名を記して厭^{まじ}ひ祭らん者、皆盡^{ことごとく}に銷し滅さんのみ、

② 文正元年（一一四六）の後土御門天皇大嘗祭の例

〔大嘗會神膳次第〕 ○東山御文庫本

次御祈請の事あり、〈此間采女ほとををきてまいるへし〉

其詞云、

伊勢のいすゝの河かみにおハしますあまてる御神、あまつやしろくにつやしろのもろゝゝの神たちに申て申さく、われ諸神^{御いみな}のひろきまもりによりて、國の中たひらかに、年穀ゆたかにして、たかきいやしきをおほひ、もろゝゝの民をすくはん、よりにことしあらたにえたる所の、にぬをものをたてまつる、又身の上におかすへきわさはひを、未萌にはらひのそきて、さりなへあしき事をかしき來たる事なからん、又たかき山ふかき谷所々名をしるして、ましなひまつらん物みなことゝゝくに、けちほろぼさん事、これ天神地祇のあつきまもりをかうふりていたすへきもの也、

③ 元文三年（一一七三）の櫻町天皇大嘗祭の例

(1) 〔元文三年大嘗祭御笏紙〕 ○東山御文庫本

伊勢のいすゝの河上に御座す天照大神、天つ屋しろ國つ社のもろゝゝの神たちに申て申さく、昭仁^{（櫻町）}諸神の廣きまもりによりて、國中たひらかに、年穀ゆたかにして、たかきいやしきをおほひ、もろゝゝの民をすくハむ、よりにことしあらたにゑたるところの、にぬおものをたてまつる、又てる仁^{（櫻町）}か身の上におかすへきわさはひを、はらひのそきて、さりな

ハあしき事をかしたる事なからん、又たかき山ふかき谷ところ々々名をしるして、ましなあまつらんものミなけちほろほさん事、これ天神國つやしろのあつき守りをかふむりていたすへきもの也、と恐ミ々々も申て申さく、

(2) 「元文三年大嘗祭作法覚次第」 ○東山御文庫本

伊勢のいす々の河上におはします天照大神、あまつやしろくにつやしろのもろ々の神たちに申て申さく、昭^(縣)仁諸神のひろきまもりによりて、國の中たひらかに、年穀ゆたかにして、たかきいやしきをおほひ、もろ々の民をすくはむ、よりてことしあらたにゑたるところの、にぬおものをたてまつる、又て^(縣)仁か身のうへにおかすへきわさはひを、はらひのそきて、さりなはあしき事をかし來たる事なからん、又たかき山ふかき谷ところ々々名をしるして、ましなひまつらんものミなけちほろほさん事、これ天神地祇のあつきまもりをかふむりていたすへきものなり、とおそれミおそれミも申て申さく、

④寛延元年（一七四八）の桃園天皇大嘗祭の例

「大嘗祭御祈請文」 ○東山御文庫本

いせのいす々の河かみにおはします天照大神、またあまつ神くにつやしろの神たちに申て申さく、遷^(縣)仁すく神のまもりにより、國ゆたかに、もろ々のたみをすくはむ、よりてあらたにえたるにぬおものをたてまつる、又とを^(縣)仁か身におかすへきわさはひをのそき、又ところ々々名をしるして、ましなひまつらんものミなけちほろほさんこと、これあまつかミくにつやしろのまもりをかふむるへきもの也、

⑤年次不詳

「大嘗祭御祈請文」 ○東山御文庫本

伊勢のいす々の川上におはしますあまてる御神、あまつやしろくにつやしろのもろ々の神たちに申て申さく、御いみな諸神のひろきまもりによりて、國の中たいらかに、年穀ゆたかにして、たかきいやしきをおほひ、もろ々の民をすくはん、よりてことしあらたにえたるところのにぬおものをたてまつる、又身のうへにおかすへきわさはひを、未萌にはらひのそきて、さりなハあしきことをかし來たる事なからん、又たかき山ふかき谷ところ々々名をしるして、ましなひまつらん物ミなこと々々に、けちほろほさん事、これ天神地祇のあつきまもりをかふむりていたすへきもの也、